

令和 2 年 7 月 2 日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K01128

研究課題名(和文) 双方向型多言語学習ウェブシステムの構築に向けて：多面的な実践によるパイロット開発

研究課題名(英文) Towards the Construction of Interactive Multilingual Learning: Pilot Development Through Multifaceted Practice

研究代表者

湯山 トミ子 (YUYAMA, TOMIKO)

首都大学東京・人文科学研究科・客員教授

研究者番号：60230629

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中国語ウェブ教育システム“游”のマルチリンガル化への発展を目指す基礎的研究を行った。具体的には同システムのもつ自律的学習能力の育成と個人差に対応できる学習者能動型双方向性を備えたウェブツールを構築し、ICT活用時代の外国語教育の新たな展開と意義の創出を目指した。この目的の為に、モバイル多言語アプリ『Wave“游”』を試開発し、中国語版はフリーソフト(Apple、Google)として社会に発信し、大学初修中国語教育では、PC・モバイル・SNSとの連携教育を実現した。英語、日本語版は、三言語同一プラットフォームに装備する教材コンテンツの試案を検討し、マルチリンガル化の基盤準備を進めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

グローバル化の進展、ICTの発達、モバイル端末の普及により言語学習は新たな発展期を迎えている。簡便に利用できる外国語学習アプリは多いが、そこでの学習者はシステムの利用者、回答者に留まり、必ずしも能動的な双方向性学習には至っていない。本研究では、外国語学習に重要な音声学習の視覚化と判定機能をもつ双方向機能を搭載した『Wave“游”』中国語版を社会に発信し、更に、SNS(LINE お友達機能)を利用し、学習者を特定し、学習履歴を活用できる双方向性アプリ『小游』との連携を実現した。中国語版の開発は、今後多言語化を目指す日英版の開発基盤として、社会に発信できる学術的、社会的意義の基礎となった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to conduct basic research to realize the multilingual web of the Chinese educational system "You". Specifically, we focused on the developmental function of self-learning ability and the active interaction function of learners that can cope with individual differences. By doing so, we aimed to develop and create significance as a new multilingual tool in the age of ICT utilization. In this research, we developed a mobile multilingual application "Wave "you"" and released the Chinese version to society as free software (Apple, Google). In addition, we introduced it to Chinese language education class and realized the fusion of PC, mobile and SNS. For the English and Japanese versions, we examined different teaching materials on the same platform, created prototypes, and proceeded with basic preparations for multilingualization.

研究分野：ICT活用外国語教育

キーワード：多言語教育 Wave中国語“游” 音声教育 モバイルアプリ 日英中 多言語アプリ 初修外国語

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

グローバル化の進展により促進される国際共通言語としての英語重視は、英語一元主義、単言語主義の教育趨勢を作り出し、多言語によるコミュニケーションの必要性和重要性を再提起している。しかし、日本における多言語教育の貴重な窓口である大学教養課程における初修外国語教育は、制度成立以来の構造的矛盾(少ない教育時間と高い到達目標)、学習者のモチベーション、18歳人口減少に対応する経営戦略等々により、制度的縮減の道を辿り、多言語教育実現の場として存続の危機に直面している。こうした教育状況下で、効果的、効率的な言語教育を生み出す方途として注目されるのが、ICT活用、普及時代ならではの利点を生かしたe-Learning多言語教育である。代表的な先行システムには、20カ国語を対象言語とする東京外国語大学開発によるモジュール型多言語教育システム(TUFS、21世紀COEプログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」による基本開発、2003~)から簡便なモバイルアプリまで多様な学習システムがあるが、いずれも学習者への提供という単方向システムとして構築されており、学習者はあくまでもシステムに対する回答者、返答者として受動的利用者に留まらざるをえない。近年求められる学習者中心の双方向性教育、学ぶ主体のための教育の実現という課題については、さらなる進化と発展が必要である。本研究は、多言語教育とこれを助けるe-Learningシステムのもつ現状と課題を背景に、学習者が発する学習情報を基に、学び手と教え手が連携して教育を創造できるエンドユーザ能動型、自律型学習が可能な双方向性機能をもつ中国語教育システム“游”(https://www.chinese-you.net.com、PC版)に着目し、その機能を多言語に転用し、自律型学習能力の育成、学ぶ主体としての学習者を重視する学習者能動型双方向性機能を有する統一的に一元化されたウェブプラットフォームをもつ多言語システムの開発課題を着想した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、中国語ウェブ教育システム“游”のマルチリンガル化への発展を目指す基礎的研究を行うことにある。同システムは自律的学習能力の育成を目指し、多言語にも転用できる諸機能を多数有している。特に、外国語学習に重要な音声学習の視覚化のためのツールとして、音声の高低・緩急・強弱表示、瞬時に比較判定できる声調波形機能、音声・画像・文字を組合せた辞書データベース、学習者の学習状況をフィードバックできる双方向性機能等、多言語における有用性を備えている。本研究では、それらのツールと多言語への旦陽の可能性と効果を考察し、システム全体の展望を考案する。また、自律型学習と関連する反転授業にも利用できるように、マルチデバイス対応、ビデオ教材との連携等も検討課題とする。本研究が目指すシステムは、グローバル化する世界に求められる多言語学習を効果的、効率的に推し進めるとともに、個人差にも対応する学習者能動型双方向性ウェブ学習ツールとして、ICT活用時代における外国語教育の新たな展開と意義を生み出すものとする。

3. 研究の方法

(1) 基盤開発：多言語システムの基盤となるパイロットシステムの開発。

PC版“游”システムのマルチリンガル化実現のための基礎考察を行えるパイロットシステムの全体的なデザインを検討し、開発する。

(2) **パイロットシステムの試用**：上記(1)により開発したシステムの試用により、本構築のためのシステムデザイン、機能プランを検討し、多言語学習とシステムの考察研究を推進する。

既開発の中国語ウェブ教育システム“游”(PC版)の機能と教材コンテンツについて、日本語、英語に転用する場合の適応性、適正について、それぞれの言語学的特徴と学習効果から複合的に考察し、具体的な選定を行う。既開発成果をもつ中国語については、大学初修中国語授業に導入し、その成果と課題を検証する。日本語・英語については、試作モデルを実験的に試用し、効果と課題について検討し、学習者の意見も聴取し、システム構築、教材案の策定に取り込む。

(3) **多言語学習とICT活用言語教育についての知識増進と研究課題への反映**：日進月歩で展開するICT活用言語教育と多言語教育システムの動向に注目し、先進的研究成果と課題を吸収し、知識の増進と本研究課題への反映について検討する。特に、ICT活用が進む英語分野の先進的な研究成果、母語の異なる学習者への多様な教育取り組みをもつ日本語領域の成果に目を向け、その成果を吸収する。

(4) **研究会の開催**：上記(1)~(3)を行うため、研究会メンバーによる研究会を定期的に行い、学会発表、研究交流による知識増進、研究課題達成の促進を図る。

4. 研究成果

(1) **開発成果、特徴範囲**：本研究では、日英中三言語の言語学的特徴、並びに質的に異なる学習者(初修中国語学習者・日本語学習者・英語中級リメディア学習者)を想定した多言語学習システムとしての特徴から、次の三つの多言語システム開発の方向性が見出された。

プラットフォーム&コンテンツの共有

プラットフォームの共有&コンテンツの個別化

三言語の連係、比較対照学習による多言語、多文化理解教育の展開

本研究期間においては、**プラットフォームの共有**、**プラットフォームの共有&コンテンツの個別化**、**三言語の連係、比較対照学習による多言語、多文化理解教育の展開**についてシステムプランを考案し、それにより多言語学習とシステムの新たな見地をえることができた。

(2) 開発したシステムの主な内容と特徴¹⁾

中国語版：『Wave 中国語“游”』(図1・図2)

中国語ウェブ教育システム“游”(PC版)第四部『発音と語法の基礎』(初級中国語教材)をモ改編し、モバイル教材として、初年度発音編、次年度文法編を開発し、Apple(認可)とGoogleのフリーソフトとして、社会に発信するとともに、大学初修中国語授業に導入し、学習者の学習利用状況と学習成果について、アンケートと成績評価との関連性についてデータを集積、分析し、その成果と課題について公表した(学会報告)。発音では、中国語発音の基礎となる声調波形学習(模範音声と学習者の声調比較、学習者の声調判定)及び母語日本語、既習外国語英語学習の正負の干渉に着目した学習課題と誤答傾向を明示する解説を深化させ、さらにモバイル端末の固有性に基づく画面構成、教材内容、提示法等、PC版とは異なる特徴によるコンテンツの条件、その適正化等を検討し、ICT活用教育&教材としての進化、発展を獲得した。

日本語版：『Wave 日本語“游”』(図3)

多様な母語をもつ日本語学習者の言語学習において、母語音声の干渉により個人差に対応した教育指導(個人指導)が実現しにくい。そのため、“游”システムのピッチを表示できる声調波形表示機能のもつ効果、有用性に着目し、日本語初級学習者を対象とする日本語版“游”アプリ教材を試作開発し、日本語学校在籍初級学習者に試用し、聞き取り調査を行った。これにより音声学習の運用と効果、有用性を析出し、多言語アプリへの導入法、課題を考察した。

英語版：『Wave 英語“游”』(図4・図5)

初修学習者を対象とする中国語、日本語学習と異なり、英語は英語中級レベルのリメディア学習を想定して、ピッチ曲線表示による音声学習の視覚化、発信型教材(日本紹介)のサンプルコンテンツを試作し、運用基盤、課題、期待される成果について検討した。

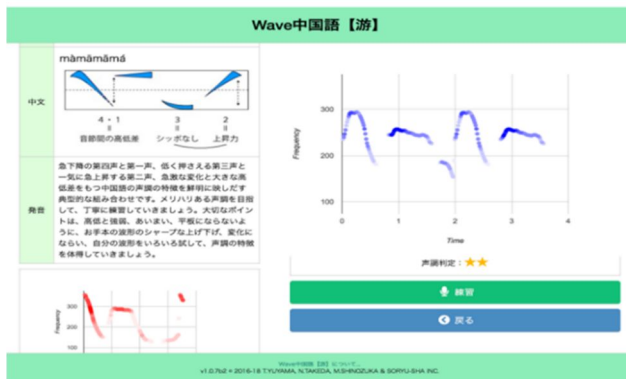


図1 中国語声調波形表示機能(タブロイド版の表示)



図2 紛らわしい発音(文字・音声)

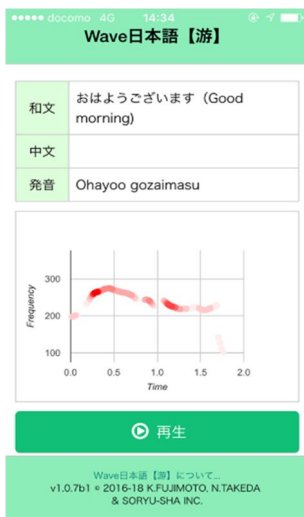


図3 日本語 (アクセント学習)



図4 英語(イントネーション練習)



図5 日本紹介(音声と英文)

¹⁾湯山トミ子・神田明延・篠塚麻衣子・藤本かおる・武田紀子「新時代の外国語学習の試み：モバイル多言語学習アプリ『Wave“游”』の開発と課題」、教育システム情報学会第43回全国大会論文集、2018.9.5、pp117-118.

(3) ICT活用による言語教育の展開(PC・モバイル・SNSの連携)

中国語ウェブ教育システム“游”のマルチリンガル化のパイロット開発媒体として、本研究では、モバイル多言語アプリ『Wave“游”』(日英中)を開発した。そのうち、中国語版『Wave 中国語“游”』は、フリーソフトとして社会に発信し、大学初修外国語教育課程での授業実践にも導入し

た。この開発運用は、PC版と異なるモバイル版アプリケーションとこれを利用する学習法についての新たな学術的知見をもたらし、さらにSNSを利用した学習アプリ(マイクロラーニングアプリ)の開発、並びに異なる媒体の連携による複合学習の実践事例を生み出した。具体的な考察、研究成果の概要は、以下の通りである。

モバイル版の構築：PCに比べ、モバイル端末は、簡便に利用できる利点をもつものの、画面、コンテンツ容量の小型化により、内容、教材提示法に制約がある。そのため、教材内容は、網羅的に知識増進を図るよりも、重点を絞ったターゲット攻略型の展開が効果的な成果を生む。できるだけ少ない知識提供、学習課題で、効率的、効果的な習得を追求する量的ミニマム化が求められる。しかし、画面の小型化は、一欄できないことにより、対象をフォーカスするため、細分化した詳細情報を提供できる利点も生み出す。モバイル化による利点が、単なる簡便さ、量的縮小化に留まらぬ教育の質的相違をもたらす点に、教育コンテンツ&ツールとしての固有性が見られる。ICTの発達、モバイル端末の普及がもたらす教育の進化、発展の契機として注目される。しかし、フリーソフトとして社会に発信する場合、いつでも、どこでも、誰にでも広く提供する不特定多数による自由度の高い学習形態では、個々の学習者の学習状況の把握できず、そのままでは双方向性機能の実現をはかれない、ユーザ特定の機能の導入と広範囲の社会発信との双方向の実現のためのシステムの拡充、工夫が必要となる。

SNSの利用：本研究課題で開発した『Wave 中国語“游”』は、登録機能をもたないが、これを補完するものとして、アプリ制作会社(株)想隆社(2018~)とSNSを利用したクイズアプリ『小游』(図6)を共同開発し、学習者を特定し、その学習履歴を利用する運用法を実現した。『小游』は、LINEのお友達に登録した学習者に、毎日定時(午前10時)に授業進行と同期したクイズ形式の演習問題(発音・文法計5問)を出題する。回答者は24時間以内に回答し、正誤判定と出題意図、誤答傾向を説く詳細な解説を受取れる。自らシステムにアクセスせずとも自動的に配信される受け身型学習、いつでも好きな時に解答し、スクロール機能で学習履歴を閲覧できる便宜性、ゆるキャラ(子どもパンダ)の友達口調による対話型コミュニケーションによる学習スタイル等から、学習者の評価が高く、教師も登録学習者の学習履歴から教育指導の情報を得ることができる。機能性においては、問題ソースでもあるPC版“游”システム第四部「演習問題」のような出題内容の多様性、履歴分析に及ばないものの、閲覧型を主形態とするモバイル版アプリを補完する点で注目される(output型 intake)。日英版多言語学習アプリで求められる学習者自身による学習情報の発信という能動型学習機能を備えたアプリの実現をはかる基礎開発と運用事例となった。『小游』の内容紹介、学習者の評価、成績との関係性等の詳細は参考文献参照²⁾。



図6 アカウントキャラクター



図7 聴き取り問題

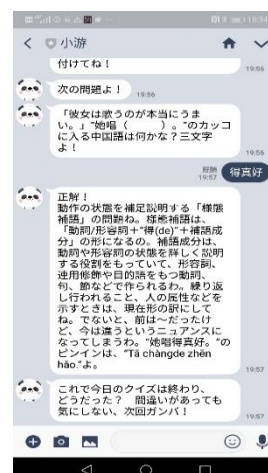


図8 文法学習(空所補充)

²⁾湯山トミ子・篠塚麻衣子・武田紀子「モバイル、SNS普及時代の初修外国語教育の考察 - 『Wave 中国語“游”』『小游』の開発と教育誌上』、『コンピュータ&エデュケーション』Vol.46 pp52-57 2019.

PC・モバイル・SNSの連携によるICT活用学習：

モバイル端末の普及、SNS隆盛の状況下で、近年、ますますPC離れが促進されている。大学外国語学習の現場でも家庭にPCをもたない学習者が増加している。そうしたなかで、教室環境では、多機能、大型画面、容量の大きなPC画面での授業はなお有効であり、学習者アンケートでもPC利用は不便さだけでなく、機能的利点が挙げられている。本研究では、PC版“游”に、モバイル版『Wave 中国語“游”』、さらにLINE利用の『小游』を連携することにより、学習者能動型のICT活用教育を実現した。この連携学習は、日本語版、英語版に拡充することにより、モバイル端末普及、SNS隆盛時代のICT活用多言語教育システムにも拡充できる。これにより、複数媒体の連携、複合利用により、それぞれの媒体のもつ特徴を活かした新たな多言語システムとこれによる学習法を実現できる事例実現の契機と成果を得たといえる。

(4) 多言語学習法とアプリ開発の構築プランの策定

本研究では、統一プラットフォームを構築し、三言語異教材の開発を行い【本報告書4(2)】これにより自律型学習者の育成と学習者能動型多言語システムの構築(中国語ウェブ教育システム“游”のマルチリンガル化)及び多言語学習法についての考察研究を進めた。これを踏まえ、本研究の発展的課題として、統一プラットフォーム、共通教材による多言語学習&システム案【本報告書4(2)、】の検討を行った。最後に、本研究課題のまとめとして、その概要を述べておきたい。

同一プラットフォーム・共通教材(比較対照学習による日英中三言語連携学習)

同一プラットフォームに共通教材を搭載し、学習者に提供する場合、一定程度学習レベルの同一性と学習ニーズの同一性が問われる。しかし、グローバル化の進展、ICTの発達、モバイル端末の普及による多言語環境の出現は、学習者の多言語学習のニーズ、レベルの多様性を増している。現代社会における社会状況、生活環境のもたらず言語学習のニーズ、レベルに一律に応えることは容易ではない。そうした多様性にあっても根強く、また外国語学習の重要な意義を担うものとして、異文化理解への関心、文化間理解を求める要請がある。中国語ウェブ教育システム“游”のマルチリンガル化を基本課題とした本研究では、日本人中国語学習者の多言語学習のニーズとして多い英語リメディア教育に着目して、これを基本とする多言語システムと学習法について検討し、プラン策定を試みた。その主な要件は次のとおりである。

学習システムの基本概要(多言語学習モデル)

- ・学習者：中国語・英語の中級学習を目指す日本語母語話者
(日本語、または英語で中国語を学ぶ非母語話者)
- ・背景：英語・中国語を運用できる国際化人材育成のニーズの増大
日本語母語話者の中英運用人材不足
日本語母語話者の中国語学習者に多い英語リメディア教育の需要
- ・学習教材：文化間理解を深める発信型教材による語用論学習
中国語ウェブ教育システム“游”第四部「トピック作文」を素材源として改編補充
(自己紹介、日本紹介、衣食住の習俗紹介等、発信型言語学習教材)
- ・作成方法：日英中の三言語比較対照学習
学習教材中の発音・文法の三言語比較対照学習
語用論による文化間理解の相違比較
- ・学習形態：基本教材と演習問題の複合利用、PC・モバイル教材等、ICTツールの複合利用・
モバイル版の個人特定機能、クイズ型演習問題の発信と学習履歴の活用による
双方向性学習の実現

多言語学習プランとしての意義

既存の多言語学習システムは、学習者と学習目標言語が1対1で対峙する単言語型学習形態をとる(図9、図10)。そのため多言語学習の成果も言語ごとに分断され、多言語を学ぶことによる連携性、多言語学習により得られる学習者の言語能力の統合的な認知、活用が難しい。言語能力は、言語ごとの習得度として評価され、他の言語の学習に活かされにくい。多くの学習者は、母語に加えて英語等の既習外国語、さらに第二、第三の外国語学習を行い、言語能力は多層的に蓄積されている。言語間の正負の学習干渉に着目するとともに、多層的に蓄積された言語能力を活用できることが望ましい。多言語の比較対照学習は、言語間の相違、共通性により言語能力を言語ごとの枠組みに分断せず、影響性を踏まえつつ、有機的に連携して効果的、効率的な学習の実現を促進する利点をもつ。また多種類の言語比較により、各言語の特徴を明確にし、言語構造への理解を深めることができる(図11)。これらの特徴により、言語ごとに分割された単言語学習を補完する多言語学習ならではの言語学習力の育成を実現する意義、効果を期待できる³⁾。

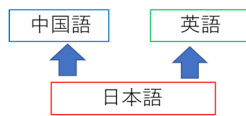


図9 現行の多言語学習



図10 現行の多言語学習(多言語対応型)

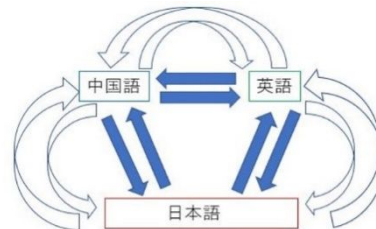


図11 新たに提起する言語対照連携型多言語学習
(黒は学習、白は言語習得により獲得活用する能力)

³⁾ 湯山トミ子「ICT活用時代における多言語学習の一考察：言語習得能力に着目した多言語連携学習とシステムプラン」、次世代研究、No 2 ISSN 2432-7506(Online) / ISSN 2432-7492(Print)明治大学サービス送信研究所、pp34-41、2020。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 湯山トミ子	4. 巻 2
2. 論文標題 ICT活用時代における多言語学習の一考察：言語習得能力に着目した多言語連携学習とシステムプラン	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 次世代研究	6. 最初と最後の頁 34-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 神田明延	4. 巻 No.516-7
2. 論文標題 CALLとeラーニングの理論的背景とその実践の変遷	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 首都大学東京人文科学研究科人文学報（日本語教育学教室編）	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 藤本かおる	4. 巻 19
2. 論文標題 日本語初級レベルのグループオンライン授業での教室活動に関する研究 担当教師へのインタビューを中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本e-Learning学会誌	6. 最初と最後の頁 27-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 藤本かおる	4. 巻 20
2. 論文標題 日本語のグループオンライン授業での教室活動に関する研究 1事例の教案分析を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本大学大学院総合社会情報研究科紀要	6. 最初と最後の頁 55-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 湯山トミ子・神田明延・藤本かおる・篠塚麻衣子・武田紀子	4. 巻 -
2. 論文標題 新時代の外国語学習の試み：モバイル多言語学習アプリ『Wave“游”』の開発と課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 第43回教育システム情報学会全国大会論文集 http://www.jsise.org/taikai/2018/program/contents/pdf/B2-2.pdf	6. 最初と最後の頁 117-118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 湯山トミ子・武田紀子・篠塚麻衣子	4. 巻 -
2. 論文標題 モバイル、SNS普及時代の初修外国語教育：『Wave中国語“游”』の開発と教育設計	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 2018 PC Conference論文集	6. 最初と最後の頁 219-222
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 篠塚麻衣子・謝恵貞・湯山トミ子	4. 巻 -
2. 論文標題 初年度遠隔交流を通じた学びの展開：初修外国語における社会的構成主義の学習の可能性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 2018 PC Conferencee論文集	6. 最初と最後の頁 127-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 湯山トミ子・篠塚麻衣子・山本幸太郎	4. 巻 TL2018-51 8 (2019-03)
2. 論文標題 中国語宅配学習アプリの開発と試用：LINE BOTお友達機能を利用したクイズアプリ「小游」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 信学技報	6. 最初と最後の頁 7-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 湯山トミ子・篠塚麻衣子・武田紀子	4. 巻 46
2. 論文標題 モバイル, SNS普及時代の初修外国語教育の考察: 『Wave中国語“游”』, 『小游』の開発と教育設計	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 CIEC会誌	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 篠塚麻衣子・湯山トミ子・謝恵貞	4. 巻 -
2. 論文標題 初級中国語における遠隔交流の試み: 反転授業導入による初修外国語教育の新展	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 論文集2017 P Cカンファレンス http://gakkai.univcoop.or.jp/pcc/2017/papers/pdf/All_Paper.pdf	6. 最初と最後の頁 91 - 94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 神田明延	4. 巻 vol.17
2. 論文標題 マルチメディア教材をチャック同期提示するウェブシステムの改良: その可能性と課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本eラーニング学会会誌	6. 最初と最後の頁 32-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本かおる	4. 巻 Vol.2,
2. 論文標題 定義からみる日本におけるブレンディッドラーニングの概要	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 グローバルスタディーズ	6. 最初と最後の頁 127-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 湯山トミ子・篠塚麻衣子	4. 巻 40
2. 論文標題 初修中国語教育に於けるおける反転授業の試み: ICT活用型中国語教育“游”における実践事例の考察	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Computer&Education	6. 最初と最後の頁 73-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 湯山トミ子・篠塚麻衣子	4. 巻 -
2. 論文標題 日本公共漢語的新拓展: 翻轉型漢語教育“游”的嘗試	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 中文教学現代化学会国際研討会論文集『数字化漢語教学』	6. 最初と最後の頁 286 - 296
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神田明延・田淵龍二	4. 巻 7
2. 論文標題 ウェブベースで動くチャック同期提示マルチメディアプレーヤーの開発: 言語教育におけるTEDの利用から見た可能性と課題	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 CIEC (コンピュータ利用教育学会報告集)	6. 最初と最後の頁 73 - 78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本かおる	4. 巻 創刊号
2. 論文標題 学習者から見た反転授業実践: アカデミックライティングの実践から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 グローバルスタディーズ	6. 最初と最後の頁 77 - 84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神田明延・田淵龍二	4. 巻 17
2. 論文標題 マルチメディア教材をチャック同期提示するウェブシステムの改良：その可能性と課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本eラーニング学会会誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 湯山トミ子・神田明延・藤本かおる・篠塚麻衣子・武田紀子
2. 発表標題 新時代の外国語学習の試み：モバイル多言語学習アプリ『Wave “遊”』の開発と課題
3. 学会等名 第43回教育システム情報学会全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 湯山トミ子・篠塚麻衣子・山本幸太郎
2. 発表標題 中国語宅配学習アプリの開発と試用：LINE BOTお友達機能を利用したクイズアプリ「小遊」
3. 学会等名 電子情報通信学会 (思考と言語研究会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 湯山トミ子・武田紀子・篠塚麻衣子
2. 発表標題 モバイル、SNS普及時代の初修外国語教育：『Wave中国語 “遊”』の開発と教育設計
3. 学会等名 2018 PC Conference
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 篠塚麻衣子・謝惠貞・湯山トミ子
2. 発表標題 初年度遠隔交流を通じた学びの展開 初修外国語における社会的構成主義の学習の可能性
3. 学会等名 2018 PC Conference
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤本かおる
2. 発表標題 日本語初級レベルのグループオンライン授業での教室活動に関する研究 担当教師へのインタビューを中心にー
3. 学会等名 第43回教育システム情報学会全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 湯山トミ子・篠塚麻衣子
2. 発表標題 反転課堂与在線和移動教学開拓的新教学模式与效果
3. 学会等名 第二届在線和移動創新模式漢語學習國際檢研討会（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 湯山トミ子
2. 発表標題 亞州漢字文化圈的漢語教育研究：对于日語母語使用者的教育課題与策略
3. 学会等名 第九届亞太地区漢語花王学学会國際研討会（國際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 湯山トミ子・謝恵貞・篠塚麻衣子
2. 発表標題 古い歌はもう歌えない! : 翔び立て「初修中国語」!
3. 学会等名 日本英語教育学会・日本教育言語学会第48回年次研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 篠塚麻衣子・湯山トミ子・謝恵貞
2. 発表標題 初級中国語における遠隔交流の試み-反転授業導入による初修外国語教育の新展開
3. 学会等名 2017 P C カンファレンス
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤本かおる
2. 発表標題 日本語アカデミックライティング授業における反転授業の実践
3. 学会等名 CASTEL-J, (ポスター発表)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤本かおる
2. 発表標題 日本語教育におけるブレンディッドラーニングの概要: 先行研究の調査から
3. 学会等名 韓国日語教育学会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 湯山トミ子・篠塚麻衣子
2. 発表標題 日本公共漢語の新拓展：翻轉型漢語教育“游”的嘗試
3. 学会等名 中文教学現代化学会（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 湯山トミ子
2. 発表標題 東亞漢字文化圏の華語教育研究：對於日語母語使用者的華語學習方案及策略
3. 学会等名 第2回漢字文化圏華語教育專題研討会（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤本かおる
2. 発表標題 サブカルチャーを活用した日本文化理解授業の試み
3. 学会等名 日本アクティブ・ラーニング学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤本かおる
2. 発表標題 日本語教育におけるeラーニング
3. 学会等名 第11回全国大学教師研修（招待講演）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 藤本かおる	4. 発行年 2019年
2. 出版社 国書刊行会	5. 総ページ数 156
3. 書名 教室へのICT活用入門	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	神田 明延 (KANDA AKINOBU) (10234155)	首都大学東京・人文科学研究科・准教授 (22604)	
研究分担者	藤本 かおる (FUJIMOTO KAORU) (20781355)	武蔵野大学・グローバル学部・准教授 (32680)	
研究分担者	篠塚 麻衣子 (SHINOZUKA MAIKO) (90782805)	首都大学東京・人文科学研究科・客員研究員 (22604)	